

2022.
9.8

社長通信 特別号

2022年8月27日

杉並店に勤務していた 重松幸太郎 さんが亡くなされました。
脳に細菌が入った事と、脳梗塞が併発した事が原因だったと
聞いています。まださしおでした。

その少し前、業務中に運転席側のミラーを損傷する事故が続いた
ので、異変を感じた杉並店の仲間が診察を受けるよう強く勧め
検査で異常が発見されたのが始まりでした。

ドクターの説明では、早めに治療が施されたので良かった。すぐに仕事
復帰も果たせるという内容だった事から、皆回復して戻ってくる事を
信じて待っていました。しかし、8/8に検査入院してから、なんと3週間
で予想もしていなかった事になりました。

この度は、ご遺族の意向で葬儀は行わないという事でしたので
週明けに8/30に遺体が安置されている田無市の葬儀場で、
重松さんと、ご遺族に対面してきました。

重松さんの二人の息子とお母様が、言葉にならない声を漏らし、
泣き悲しむ姿は、集まった人々の胸を打ち涙を誘いました。

「もっと、こうしてあげれば良かった。ああしてあげれば良かった。」

「ごめんね、ごめんね」と何度も謝りながら冷たく濡れた頬を優しく
撫でていました。重松さんの表情が少し疲れているように見えたのか
にまらなく悲しくなりました。

つい昨日まで一緒に働いていた仲間がある日突然居なくなる。
という可能性は、私達の側にいつも存在しているのに、私たちは突然の
別れに大きなショックを受け、深い悲しみがいつまでも続きます。
聖書の言葉に「神は人に永遠を思う心を与えた」とあるように、
誰でもずっと健康で永く生きたいと願うものです。死は、特別に
人の心を苦しめ、深い傷を与えます。

それでも私たちは、そういう経験でも無き限り、死は身近なものと考えず
日々安穏と過ごし、今日と変わらぬ明日が来ると信じて毎日を
過ごしてしまいます。

2022.

9.8. No.2

以前にも紹介した。長野県にある伊那食品では、入社してすぐに「100年カレンダー」を目の前に置かれて、自分の命日を書き込むように言われるそうです。20歳過ぎの君ならば、今から100年後のカレンダーのどこかに死ぬ日があるはずだ、と言われるのです。自分で設定した命日から遡って何歳の時にどんな人生を送っていたいか？と考える今日、自分がどう生きるか？と意識して生活し、精一杯充実した毎日を過ごすために行なっているそうです。命は有限であり無駄に一日を過ごして欲しくない、という創業者の願いが込められていると聞きました。

幸せな人生をおくるためには、お金もいっぱい稼いで、良い暮らしをする事だ、と考えると、今一生懸命働いている人も居るかもしれません。しかし、先月も書きましたが、働き過ぎには特に今注意したいと思います。健康を損なってからでは遅いからです。

もし、良い生活が手に入れたとしても、体を壊してしまえば、それまでの苦労はなんだったのだろうか？と虚しくなるのではないのでしょうか。

もちろん、交通事故や大病を患う事もありますから、それだけを注意しても解決にはなりません。でも、物のために命をわざわざ削るような事はしないようにしたいものです。

世界一貧しい大統領として有名なウルグアイのムヒカ大統領を知っている方も多いと思います。世界サミットで語った彼の言葉は、多くの人の心に響いた伝説のスピーチと言われています。日本で若者向けに語ったスピーチでは、小学生の子供達までもが感動し、心を大きく動かされたそうです。そのムヒカ大統領の名言の中にこのようなものがあります。「貧乏とは、欲が多過ぎて満足できない人のことを言う。」

私達は、発展する為に生まれてきたわけではない。幸せになるために生まれて来たのだ。」 実際にムヒカ大統領は、自分の時間を大切にするために生活をシンプルにして、給料の9割を寄付しているそうです。それでも「私は多くのお金を持っていて時間の無い人よりも豊かな生活をしている」と語っています。

2022.

9.8. No3

時々 私達は立ち止まり、生き方についてじっくりと考えてみるのは大切なことではないでしょうか？

アニメ、アンパンマンの歌に、何のために生まれて、何をして生きるのか、
こたえられないなんて、そんなのはいやだ!! という歌詞があります。

子供向けのアニメに、深く考えさせられます。

聖書の中でモーセも、人間の命の儚さを痛感していました。人生の一日一日を貴重な資産とみなしていました。

「どうすれば、一日一日も大切に出来るか教えてください。」と
神に祈った記録が残っています。

きっと皆さんにも大切な家族、友人、恋人がおられることでしょう。

今一緒に過ごせている事が当前のように明日も保証されているわけ
ではありません。仲間の死もきっかけに、一日一日もどのように大切に
生き、将来にどのような希望を抱くか、若い皆さんにも考えて
いいただければ幸いです。